

所長あいさつ



令和3年度 所報「ばんだい」NO.56号の発刊に当たりご挨拶申し上げます。
今年度を振り返ってみますと、昨年度来、中国武漢市を端に発した新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい、日本においても多くの方々が罹患し、現在第6波、オミクロン株及びその亜種の全国的蔓延により福島県においても蔓延防止等重点措置が出され、マスクを着用して3密を避け、新しい生活様式を取り入れた生活を余儀なくされて3年目を迎えます。会議はほとんどオンライン。相手の表情を読み取ることができず対面式の会合が遠慮なくできる日を心待ちにしているのは私だけでしょうか。

当交流の家においては、国の国土強靱化計画の一環でライフライン（水道・電気）の複線化、ボイラー改修、宿泊室全室にエアコンの導入、さらには、寝具もエアウィーブのアスリート仕様を全室に導入など、1年かけて全面的にリニューアル工事をを行いました。トップシーズンに新型コロナウイルス感染症の第6波が襲い、教育事業の実施時期の変更や中止等、多くの利用団体から連絡を受けました。

そのような中であっても、アクティブ・ジオキャンプ2021は13泊14日の長期キャンプを予定通り実施、第7期福島こども未来塾は、時期をずらして実施したり、内容を一部変更したりして実施。第5回いなわしろフェスティバルは春は実施し、冬は中止。ばんだいアグレッシブキャンプなども新しい生活様式を取り入れながら全職員で知恵を出し合い、一丸となり、取り組んできました。新型コロナウイルス感染症の影響により、一部オンラインで実施した事業もあります。参加されたご家族や利用された子供たちの笑顔を見ると、本当にうれしくなります。

また、教員免許状更新講習、ボランティアスキルアップ、全国高校生顕彰制度「地域探求プログラム」は、地元猪苗代高校と一般募集の高校生たちと予定どおり実施しました。その他、東日本大震災から11年を迎えるに当たって、福島県内の小学生に震災講話を積極的に行いました。早寝早起き朝ごはん国民運動は、地元会津エリアの幼稚園や保育園等を中心に実施することができました。私は、コロナ禍にあって、常日頃から所員に対し、「中止することは簡単だが、全所員で知恵を出し合い、何とかできる方法を考え実施していこう。」と話しています。その考えを支持し頑張ってくれた所員に敬意を表したいと思います。

このような各種教育事業等についての実施状況をはじめ、成果と課題をまとめたものが「ばんだいNO.56」です。皆様には、ぜひご一読くださり、ご意見やご批正をいただければ幸いです。皆様からのご意見などに真摯に耳を傾けながら、次年度以降へしっかりとつないでまいります。

次年度当交流の家は、昭和41年に開所以来、57年目を迎えます。国及び機構の第4期中期目標・計画に基づき、SDGs、ESD教育、国土強靱化計画をはじめとする教育事業の展開や施設の特色化・個性化・オンリーワン化など、その役割や目標を改めて一人ひとりがしっかりと自覚しながら職務に取り組むことがこれまで以上に求められます。また、同時に各学校の応援団として機能させ、支援態勢を拡充していくことや新型コロナウイルス感染症の感染予防対策をはじめとする安心・安全な施設として利用者全員が満足できる持続可能な施設であり続けることも求められています。

今後も、ウィズコロナを意識しながら所員全員の英知と実行力を総合して、「ワンチーム」となり新たな目標に向かい、所の喫緊の課題解決を目指し、一つ一つ丁寧に確実に取り組んでいかなければなりません。

令和4年度も、利用されるすべての方々の笑顔輝く施設づくりに所員とともに邁進してまいりますので、関係の皆様には、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。

結びに、今年度、ご利用いただきました皆様、ご支援いただきました研修指導員・体験活動指導員の皆様や法人ボランティアの皆様など、関係のすべての方々に衷心より御礼申し上げます、あいさついたします。

令和4年3月

独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立磐梯青少年交流の家 所長 福士 寛 樹